

山形市PTA連合会 会報

じゅひょう



山形市PTA連合会ホームページ

ymgtcity-pta.com

検索

第 38 号

令和2年12月発行

発行 山形市PTA連合会
会長 佐藤 博之
山形市大字風間字地藏山下2068
弘栄設備内
TEL 023 - 676 - 8693
印刷 中央印刷株式会社



令和2年度 山形市教育委員会との教育懇談会(パレスグランデール) 10月16日(金)

『子どもを愛し 地域を愛し 互いを信頼し合うPTA』

～織り成す縁に感謝 子どもたちと一緒に今を生きる～

HP : <https://www.ymgtcity-pta.com> E-mail : info@ymgt-pta.jp

令和4年度

第70回日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます!!

「子どもを愛し 地域を愛し 互いを信頼し合うPTA」

～織り成す縁に感謝子どもたちと一緒に今を生きる～



山形市PTA連合会会長 佐藤 博之

日頃より山形市PTA連合会の活動に対しご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、単位PTAにおいても、子どもたちの健全育成のための環境づくりや学校と地域の架け橋としてご尽力いただいておりますことに心より敬意と感謝の意を表します。

山形市PTA連合会は今年度も「子どもを愛し 地域を愛し 互いを信頼し合うPTA」～織り成す縁に感謝 子どもたちと一緒に今を生きる～のスローガンのもと活動を展開してまいりました。人と人との縁は不思議なものであり、そしてとても大切なことです。心豊かでたくましい子どもたちを育むため、PTAの仲間として出会えたことに感謝し、お互いを信頼し合い、子どもも親も一緒に成長していくことを主眼としております。親同士の繋がりや家庭・学校・地域の繋がり、子どもたちを見守る温かく豊かな地域づくりの礎となり、必ずや子どもたちの健全育成に繋がるものと思います。そして、そのような環境を作ることが我々PTAの役割と考えております。

PTAは私たちの研修の場です。私たち親自身の成長のためには「教育の基盤は家庭にあり」というPTA活動の原則のもと、しっかり学び・研修することが必要です。テーマを「新しい時代にはばたく子どもたちを皆で育み支えよう！～スポーツや食から未来を創る～」とし開催準備を進めていただいた第63回山形市PTA連合会研修大会が未曾有の新型コロナウイルス感染拡大防止のため非常事態宣言が発令され、大切な家族や子どもたちの「いのち」を守ることを最優先事項として中止という決断をせざるを得なかったこと非常に残念な気持ちでいっぱいであり、準備をすすめていただいた第三ブロックの皆様方には本当に申し訳なく思っております。また、母親委員会との共催の「いのちの大切さ学習会」コロナ禍における学びの保障の在り方について話し合われた「教育懇談会」は開催し、親としての学びを深めることができたと思っております。さらに、各単位PTAにおいてもコロナ禍でも工夫されて特色ある活動が展開され、互いの信頼関係や絆を深めながら子どもたちの健全育成に繋げていただいたとお聞きし、敬意と感謝の意を表します。今年度も「我々PTAは家庭、学校、地域、そしてすべての子どもたちの応援団である」という理念のもと、有志で応援団を結成いたしております。「親の背中を見せる」などとカッコいいことを言うつもりはありませんが、全力で応援する姿勢、そして、その声や思いが子どもたちや保護者の方々に届き、少しでも記憶に残り、生きるエネルギーに加わってくれたら幸いです。併せて団員も募集しておりますので我こそは！という方をお待ちしております。

さて、令和4年に日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます。山形県や山形市PTA連合会の活動を全国に発信できる機会と捉え、全国からの参加者を笑顔で迎えられよう一致団結し準備に取り組みたいと思います。山形市PTA連合会としても全体会や分科会運営に携わることとなります。皆様からの全面的なご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、コロナ禍にあっても大切な家族や子どもたちの「いのち」を守ることを最優先事項としながら「ニューノーマル」のスタイルでのPTA活動にご理解とご協力よろしくお願い申し上げます。

山形市教育委員会様をはじめ関係各位の皆様にご心から感謝申し上げますとともに、今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

withコロナの中でも、 子どもたちの確かな成長を育む



山形市教育委員会教育長 荒澤 賢 雄

山形市PTA連合会並びに各单位PTA、そして、会員の保護者の皆様には、山形市の教育にご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、学校内外において、子どもたちの健全育成にご尽力をいただき、心より感謝を申し上げます。さらに、佐藤博之会長はじめ、各小中学校のPTA会長・役員の皆様方の学校、家庭、地域の三者連携に関わる多大なご貢献に対しても深甚なる敬意を表します。

さて、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目指して、政府の要請で実施された全国一斉の臨時休校の中、新年度を迎えることとなりました。保護者の皆様方には、突然の休校であったため、間近に予定されていた卒業式や入学式、子どもたちの日々の学習のことなどで大変なご心配とご迷惑をお掛けいたしました。

このような中であっても、感染防止のため多くの制約が生じましたが、卒業式と入学式を保護者の皆様方のご参列のもと挙行できたことは誠に喜ばしいことでした。子どもたちの安全・安心が最優先される中でも、我が子の成長の大事な節目に立ち会うことができたという率直な喜びの声を多くの保護者の皆様から頂戴いたしました。

2カ月半にも及ぶ臨時休校は、5月18日から段階的な学校再開を目指し、5月25日には通常の学校生活が再開されました。学校が再開され、すぐに浮上した課題が子どもたちの学習保障でした。特に卒業学年の児童生徒に学び残しが出ることをないよう、教育課程の再編成作業が行われました。長期休業の短縮や感染対策と併せた学校行事の中止や精選が進められ、すべての小中学校で、本年度中の学習保障について、しっかりとした目途が立ったところです。しかし、余裕授業時数が少ないために、駆け足や詰込み型の学習となってしまうことが全国的に心配されましたが、さすが、山形市の先生方です。どの学校でも、限られた授業時数を効果的に活用して、知識・理解の定着を図るだけでなく、思考力や判断力・表現力を培う協働的な学びが展開されました。また、精選された学校行事の中でも、子どもたちのやりがいと自尊感情を育み、心の成長を促す活動が行われたこともお聞きしています。山形市の先生方の教育に向かう真摯な姿勢と教師としての確かな力量を見取ることができ、改めて山形市の先生方を誇りに思っているところです。

現在、国のGIGAスクール構想が前倒しとなり、市の整備計画も繰り上げしたことを受け、児童生徒一人一台のタブレット端末と学校のWi-Fi環境の整備が急ピッチで進められています。山形市でも、もうすぐICT教育が本格的に実施される予定です。学校におけるタブレットを活用したICT教育は、一人ひとりが、自分のペースで学びを深めることができる個別最適化された学びを実現するだけでなく、互いの意見を交流し合う協働的な学びも充実できる学習を目指しているところです。また、再びの休校となるような事態になった時は、オンライン授業や教科書に準拠したドリルソフトを活用した学習などを行い、子どもたちの心の安定を図りながら、確かな学習保障に努めたいと考えています。

withコロナはもうしばらく続きそうです。これからも各学校では、新しい生活様式を工夫しながら、子どもたち一人ひとりの確かな成長を育んでまいります。保護者の皆様方には、山形市の教育に対する変わらぬご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

第70回日本PTA全国研究大会山形大会 第54回日本PTA東北ブロック研究大会山形大会 開催に向けて



山形大会実行委員長 船橋 吾 一

初めまして。令和元年12月に開催されました実行委員会設立総会におきまして、実行委員長に任命されました、蔵王第一中学校の船橋吾一と申します。どうぞよろしくお願い致します。

さて、実行委員会が設立されまして、早いもので一年が経過しようとしています。その間、皆様ご存じの通りコロナウイルス感染拡大により世の中が一変しました。新常態への生活スタイルの移行により、私たち大人ですら時代に適応していくことが困難な時代となりました。そんな中、私ども実行委員会も計画してきた歩みを大幅に変更せざるを得ない状況下の中、何とか準備を進めてきているところであります。感染拡大による緊急事態宣言が発令された際は、活動が一時中断したところではありますが、その後リモート会議システムなどを活用しながら、準備も遅れることなく進めることができいております。実行委員会メンバーも、多くの方からのお声がけもあり40名を超す方々から集まっていただき、5つの部会を編成しそれぞれの分野で積極的に進めていただいているところでもあります。すべての決定は、主催である日本PTA全国協議会であるため、現在議案上程という形で承認を頂戴すべく鋭意進めております。近々、大会概要を皆様にお示しできることと思います。是非、お楽しみにしていただければと思います。

本大会の開催は令和4年8月予定であります。本大会の開催に向けて、山形県PTA連合会として協働運動を展開しております。その事業名を「山形県内PTA協働参画型発信事業『いじめのない環境をこの山形から』」といたしました。コロナウイルス感染拡大防止のため、PTA活動もままならない状況下において、皆様にご迷惑をおかけしながら募集をしてまいりましたが、本事業の主旨をご理解いただき、18もの事業を申請いただきました。本事業を大会当該年度まで継続し、その名の通り「いじめのない環境をこの山形から」全国研究大会において全国に発信していきたいと思っております。

当該年度まで、皆様には何かとご迷惑をおかけしますが、折角頂戴したこの機会を活用し、山形県PTA連合会のさらなる活性化はもちろんのこと、全ては愛する子どもたちのために実行委員会としても精一杯活動していきますので、どうぞご理解の上ご協力をよろしくお願い致します。

【第70回日本PTA全国研究大会山形大会 実行委員】 (令和2年12月現在)

- 実行委員長 船橋吾一（蔵王第一中）
- 実行副委員長 荒井 寛（蔵王第二小）、高田 誠（寒河江中部小）、前田浩一（南沼原小）
- 参与 佐藤博之（第六小）
- 感染対策室 室長：小林一善（第六中） / 室員：藤倉大輔（千歳小）
- 総務部 部長：伊藤健二（第九小） / 副部長：井上周士（楯山小） / 財務：兼子和伴（西小）
部員：中村秀夫（第三中）、菅野 学（第十中）、舟山力也（第一中）
矢萩洋美（第三小）、大場貴之（第三小）、渋谷朋博（第一中）
- 全体会部 部長：横山隆太（第三中） / 副部長：河又勇人（千歳小）
部員：落合康弘（南沼原小）、茂木政樹（第三中）、菊野政治（第四小）
高見佳澄（山寺小中）、笹森 愛（鈴川小）
- 渉外部 部長：與田貴博（附属小） / 副部長：井上智博（第五中）
部員：松田佳人（金井小）、千歳 望（附属中）、長澤 純（附属小）、長瀬 修（第一中）
- 分科会部 部長：長谷川吉之介（附属小） / 副部長：狩野慎一郎（鈴川小）
部員：岩田雄治（第三中）、菅野佑吉（附属小）、小島重治（第十中）、浅野 弥史（桜田小）
押野 茂（附属中）、安藤太一郎（第五小）
- 広報部 部長：武田靖裕（鈴川小） / 副部長：伊藤暢宏（第九中）
部員：小林伸太郎（第五小）、井上大樹（第五小）、宇野正彦（第十中）
芳賀勇治（南沼原小）、荒井英晴（第九中）

第63回研修大会の中止に寄せて



第63回研修大会実行委員長 安食 克彦

第63回研修大会の実行委員長を仰せつかっております第三中学校PTA会長の安食克彦と申します。昨年の10月18日、第三中学校・第一小学校・第二小学校・第十小学校のPTAの仲間が集まり、本大会の実行委員会を立ち上げ、「新しい時代にはばたく子どもたちを皆で育み支えよう～スポーツや食から未来を創る～」のもと、各単位PTAから英知を集め充実した研修大会となるべく会議を重ね準備を進めてまいりました。しかしながらコロナ禍によりあらゆるイベントが規模の縮小または中止を余儀なくされていく中、市P連事務局より第63回研修大会は中止とする報せが届き、実行委員一同の心境は「無念」の一言に尽きるものでありました。

本来であれば行われるはずでありました研修の内容を列記いたします。全体会では第三中学校教育振興会の会長で株式会社でん六社長の鈴木隆一氏よりご講演。第一小学校が担当の第一分科会では、一般社団法人ダズクリエーション代表の榎森亮太氏よりご自身の海外でのサッカー選手経験からグローバル時代を生きる子どもたちと保護者への提言を。第二小学校担当の第二分科会では第二小学校校長の齋藤英敏氏をコーディネーターにお迎えし、米沢栄養大学助手の西田久美子氏、北京五輪陸上選手の安孫子充裕氏によるパネルディスカッション。第十小学校担当の第三分科会においては第三中学校栄養教諭の大沼明里氏による講話と山形県・山形市の食育への取り組み、グループワーク。

これまで、全体会・各分科会の準備に携わっていただきました4校の皆さまには心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。研修大会開催というお役目を果たすことができず、バトンを第四ブロックへと渡すことになってしまいますが、その頃にはコロナ禍も終息し、無事に開催できることを祈念するばかりです。

実践 報告

子どもを愛し 地域を愛し —— 織り成す縁に感謝 ——

実践 事例

地域一体となって校舎完成の喜びを体現

山形市立千歳小学校PTA会長 藤 倉 大 輔

残雪の山々が陽光に輝き、畦道や畑の斜面に黄金色の花を咲かせた福寿草が、春空に映えている季節、18年完成の鮮やか山吹色の新校舎に続き、待望の新グラウンドが完成しました。子どもたちは素晴らしい環境のもと元気いっぱい学習やスポーツに取り組んでいます。本校は今年で創立128周年を迎え、児童数は315人となっています。

5年前に会員数の減少から組織再編を行い、すべての会員から何かしらの活動に協力をいただくエントリー制をとっています。コロナ禍の影響で事業の縮小こそありましたが、例年の清掃活動や広報「ちとせ」の発行の他、コロナ禍で使用頻度が高まっている雑巾の制作を母親委員会で新たな取り組みとして実施しました。

さらに、新校舎完成を記念し保護者、学校が中心となり、地域と協力し様々な事業を展開。旧校舎には多くの卒業生を見送り、新入生を迎えてきた桜の老木がありましたが、解体とともにその役目を終えました。そこで新しく生まれ変わった千歳小の発展と子どもたちの健やかな成長を願い校舎敷地内に桜やどうたん、ハナミズキの樹木12本を植樹しました。子どもたちに大切に育てられ、きれいな花が咲く日を心待ちにしています。

9月の運動会は、完成したグラウンドで初めて開催。地域の方と一緒に新校舎完成を喜び合いました。今年は競技や応援など様々な制約がありましたが、子どもたちにとっては特別な運動会となりました。

また、校舎完成の喜びを後世に残そうと手形アート制作にも取り組みました。6枚のキャンパスに千歳の四季をテーマに子どもたちの成長を願うストーリーに仕立てました。

今後も学校と地域との関わりを大切に、良き伝統を継承し、学校づくり、地域づくりにつながるPTA活動を進めていきたいと思っています。



実践 事例

コロナ禍でもできることを着実に

山形市立第六中学校PTA会長 小 林 一 善

本校は、昭和27年「山形県山形市南村山郡滝山村組合立山形市第六中学校」として認可され、山形三中和滝山中から1085名の生徒で開校しました。昭和29年には滝山村の山形市への合併をうけ「山形市立第六中学校」と改称し現在に至っています。学区は西藏王から十日町までと広く、主に第六小学校・滝山小学校・南小学校の3学区から生徒たちが通う大規模校です。

昨年度は、男子バレーボール部が全国大会準優勝、吹奏楽部が全国大会銀賞に輝くなど部活動も盛んで、他にも多くの部が、団体・個人で全国大会出場を果たしました。また「気づき、考え、進んで実行する六中生」を合言葉に、JRC活動も50年以上の伝統ある活動として続けられています。

本年度は新型コロナウイルスの影響を受け中止を余儀なくされるPTA行事が多いなか、十分な対策を講じ、環境整備活動とリサイクル活動はなんとか行うことができました。また今年で6年目となる六中学区一斉あいさつ運動（2回）も行いました。これは、前述した3つの小学校PTAと連携し、通学中の小・中学生に声かけを行い、同時に危険箇所の確認なども行う活動です。毎回、警察や町内会、防犯連絡協議会、交通安全協会など地域の方々からも多大なご協力をいただいております。

学校行事としても、体育祭・合唱祭は「無観客」で、9月に延期された修学旅行も2度の行程見直しの末なんとか実施することができ、卒業学年の生徒達にとっては様々な意味で忘れられない一年になったのではないかと感じております。

今年度は、残念ながら思うに任せない一年となってしまいましたが、学校・保護者・地域の連携も密にしながら、できることを着実に、これからのPTA活動を行っていききたいと思っています。



親子・互いを信頼し合うPTA 子どもたちと一緒に今を生きる



創立120周年を迎えて

山形市立楯山小学校PTA会長 加藤 健 司

楯山小学校は、明治33年5月10日開校しその歴史をスタートさせ、今年創立120周年を迎えました。毎年この日を創立記念日とし創立記念式を行い、児童全員で大岡山登山をするのが定式ですが、今年は新型コロナの影響で予定通り行えませんでした。しかし、子どもたちの思い出に大岡山に登らせてあげたいという思いから、時期を遅らせ実施することが出来ました。大岡山の山頂から楯山の町並みを俯瞰すると、その美しさにはこれまでこの地区を守ってくれた地域の方々の努力を覚え120年という歴史の重みを感じました。

また、記念式典を執り行う為、同窓会、教職員、PTAが一味同心となり実行委員会を組織しました。感染拡大の懸念から十分な準備期間が設けられず制約も多々ありましたが、その中で工夫を凝らし、より良いものを作りたいと思い活動してきました。

記念事業として同窓会より学校の池の改修を行って頂き、綺麗な水の流れる鯉池に変わりました。池には錦鯉も放たれ、小学校に新しい仲間が増えました。この池の名前は児童の皆さんで考え「希望の池」と命名されました。

記念のアトラクションには、山形県警察音楽隊の皆様から約1時間の演奏会をして頂きました。迫力のある演奏に児童の皆さんは聞き入っていました。途中ゲームのテーマ曲や、人気アニメの主題歌等もあり、子どもたちの興味を惹きつけ身体でリズムをとったり大喜びで鑑賞していました。最後には楯山小学校の校歌を演奏して下さるという贅沢なサプライズを用意して頂き、それに合わせて全校児童で声を高らかに歌ったことは大変印象深いものでした。今年は様々なイベントが中止になっている中、この演奏会で子どもたちもストレスを発散できたのではないかと思います。大盛況のもと式典を終えることが出来ました。

今後も楯山小学校が、新たな時代とともに伝統を継承し、地域の皆様とさらなる歴史を積み重ね成長していける様支えていきたいと思っています。



普段通りの日常

山形大学附属中学校PTA会長 佐藤 公 啓

私たち山形大学附属中学校は、前身である山形師範附属中学校から数え、今年創立73周年を迎えました。千歳山の麓、山形県庁の隣に位置する本校には、附属小学校の他、県内27校余りの小学校から入学した、約400名の子どもたちが学んでいます。本校は開校以来、「健康かつ明朗で、豊かな知性と誠実な社会性を持ち、自主的で実践力のある生徒を育てる」ことを不変の目標に掲げています。また、本校の特徴の一つに「教育実習」があり、今年度は約130名の実習生を受け入れる、県内最大の実践校となっています。

学校行事・イベントは、2月からのコロナ禍により、ほとんどが中止となりましたが、運動会と合唱コンクールについては、規模を縮小し実施することができました。本校のPTA活動は、例年であれば、総務部・広報部・施設厚生部・体育部が中心となり、学校の整備や行事活動への協力、広報紙の発行や歓送迎会の企画運営などを行っています。また、母親委員会による「制服リユース」や講演会の開催などがありますが、今年は様々な活動の機会が失われてしまいました。そこで今回、余剰となったPTA活動費の一部で、運動会の「綱引き」で使用する、密を避ける為の綱を新たに寄贈しました。

生徒たち、そして先生方も、誰も経験したことのない時間を共に過ごし、一度しかない学校生活を頑張っています。一刻も早い「普段通りの日常」が、全ての学校に戻ってくる事を心から願っています。



令和2年度

教育懇談会報告

日時 令和2年10月16日（金）17：00～ 場所 パレスグランデール

テーマ コロナ禍における学びの保障を目指して～学校行事と教科における学びの保障をするために～

広報委員長 小林 一 善

10月16日（金）、感染拡大防止策を十分に講じた上で、山形市教育委員会より荒澤教育長をはじめ4名の方々からご出席いただき、「教育懇談会」が開催されました。今年度は市P連総会も書面決議だったため、各校のPTA会長が顔を合わせる初めての機会となりました。

はじめに、学校教育課長の田中克様より「コロナ禍における学びの保障を目指して～学校行事と教科における学びの保障をするために～」という、まさに時勢に合ったテーマで話題提供をいただきました。この中では、大きく2つの内容でお話をいただきました。1

つ目は「令和2年度山形市立小中学校の修学旅行・運動会等について」ということで、新型コロナウイルス感染防止に努め児童・生徒の安全・安心の確保に最大限配慮するという大前提の元で、(1)修学旅行の行き先や実施期間、(2)運動会の保護者や来賓の来校（参観）や競技種目、(3)校外学習・宿泊学習等の実施方法の3点についてご説明いただきました。また2つ目は「1人1台のタブレット導入による今後の取組」として、年度内に各校に配置予定のタブレット端末及びルーターを活用し、(1)再度「臨時休校」措置が取られた際の体制・対応策、(2)ICT教育の今後の推進策の2点についてご説明いただきました。

続いて、教育委員会の皆様にもご参加いただき、9つのグループに別れ、アクリル板ごしにトークリーダーを中心に話し合いが行われました。先の話題提供を受け、後述する2つの視点で、各校の現状や課題などについて議論が交わされました。各テーブルでの議論は時間を追うごとに熱を帯びてきましたが止む無く終了時刻となり、その後、記録係の方から各テーブルでの議論の内容を発表していただきました。

以下、議論の中から一部抜粋して掲載致します。

視点1「コロナ禍における学校行事の在り方について」

- 《運動会》 PTA役員が分担して保護者の誘導や検温などを行った
参加できない祖父母から不満の声が上がった
軍手で「玉転がし」を行うなど工夫して競技を実施した
- 《修学旅行》 行き先変更（岩手県や庄内地方）があったが感染対策を行い実施できた
家族の都合で参加できない子がいた
- 《PTA活動》 今年度の活動は全くできないが、逆にPTAの在り方を見直すきっかけとなる
活動に差が出てきているので、学校（先生）同士の情報交換もしてほしい

視点2「今後のオンライン学習の在り方について」

- 《環境整備》 各家庭の通信環境整備がどこまでできるのか不安
保護者のリテラシーや経済的格差によって影響を受けないようにしてほしい
- 《安全性》 セキュリティ確保（フィルタリング等）を予め施しておいてほしい
ネットモラルなどのルールを明確にする必要がある
- 《学習方法》 低学年の児童が使いこなせるのか疑問
タブレットは「教科書」代わりに使うのか「ノート」代わりに使うのか不明
一人で学習できない子どもの受け皿として公民館等も必要ではないか

これまで私たち自身も経験したことのない状況の中で、子どもたちをどう導いていけばいいのか、参加者の皆様の苦悩がにじみ出た内容が多くありました。特に今後のオンライン学習という未知の領域については不安の声が多く聞かれました。

最後に佐藤博之市P連会長より総括・講評として、子どもの方がタブレット端末などの操作方法を覚えるのが早いというのが現実なので、親としてもしっかりと学び、準備することが大切であるという話がありました。

ご参加いただいた皆様には、この場を借りて深く感謝いたしますとともに、今回の議論を各PTAに持ち帰っていただき有効活用していただけると幸いです。





いのちの大切さ学習会

性教育は“いのち”の学び

山形市PTA連合会理事 山口 真 史

11月15日（日）13：30から霞城セントラルにて「家庭でして欲しい、いのちと性の話」と題し、井上聡子先生の講演を聞かせていただきました。山形県内唯一の産婦人科医のスポーツドクターでもある井上先生の話は、今までの自分の考えを一新させる内容でした。

現代の社会は出産回数の減少・出産の高齢化により、妊娠を目的としない排卵が多いため、子宮内膜症の増加につながっており、その後不妊症や卵巣がん、心血管疾患の原因となるとの事です。ピルの使用で周期のコントロールができ、スポーツ選手の例を挙げ、ロンドン五輪選手のうち7%、リオ五輪選手28%、来年に延期となった東京五輪選手に関しては30%を超える選手が使用しているとのことでした。

性教育は、自然に学習するのを期待するのは無責任だということです。現代社会は、スマホやPCなどでたくさんの情報が入ってくる環境にあります。ですが、その中には間違った情報が多く存在しています。親が、家庭が、誤った情報の倍以上の正確な情報を提供していかなくはなりません。家庭でして欲しい性教育として、

- ① できるだけ低学年で性器の名称、プライベートゾーン、生殖の仕組みについて伝える
- ② 質問された時に嘘をつかない、はぐらかさない
- ③ 「わからない、一緒に調べよう」はOK！
- ④ 質問しない子にも、成長過程に適切な本をプレゼントする

が挙げられるとのこと。何よりも子どもたちの幸せな将来のために、幼少時から、科学的なしくみから社会のルールまで、何度も繰り返し、複数の大人が、また大人自身が学び楽しみながら教えていくことが大切です。

また、性の多様性についてもお話をされました。LGBT（性的マイノリティー）という言葉は最近よく耳にしますが、多様性を認め合う教育が家庭にも求められています。それを実践することで子どもの人権教育となり、「SDGs（持続可能な開発目標）」17の目標の内、「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」の目標達成に少しでも近づけるはず。です。

最後に、性教育は学校が教えるだけでは足りない、家庭でしていかなければならない教育であるということです。自分を振り返ってみると、子どもの性教育に関してどこかで避けていたことのように感じます。「自立とは、依存先を増やすこと」問題を起こさないお利口な子ではなく、何か問題が起きた時に、困りごとを誰かに相談しながらも、自分で解決できる子に育つように向き合わなければなりません。『性』は、“心”に生きると書きます。性教育は命の学びであると強く感じました。



コロナ禍で確かめられた「絆」

山形市立第三中学校校長 井 上 賢 一



今年度のPTA活動において、本校の役員の方々から何度となく耳にしたのは「今年は何にもなくてよお」「今年は何にもしてねがらよお」という嘆きの言葉でした。

しかし、私は現在のこの状況をもって、保護者の方々と教職員の絆が弱くなっているとは思いません。4月～5月にかけての臨時休校期間には、ホームページやメールで様々な状況報告や連絡を発信させていただきました。それぞれのご家庭では難しい対応に迫られる事も少なからずあったと存じますが、各学校の取り組みをご理解いただき、学校再開後の感染防止対策も含め全面的にご協力いただきました。それ以後も、各種大会の中止、学校行事への参加、修学旅行の実施等、時々刻々と変化しそれぞれの学校が難しい判断を迫られる中、ご理解とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

会議等で直接お会いしたり懇親会でお話をする機会もとれない今年度でしたが、私は「子どもたちのために」という一つの思いで「絆」を深めることができたと感じています。それはある意味、PTA活動の本来の姿でもあったのではないかと思います。そして、各学校がこの厳しい現実と困難に怯むことなく立ち向かうことができたのは、PTAの役員の皆様をはじめ保護者の方々と目の見えない信頼感という後ろ盾があつてのことであることに疑う余地はありません。本当にありがとうございました。

最後に、市内全ての子どもたちにマスクケースを寄贈して下さった有志の皆様に、皆さんの励ましが子どもたちのエネルギーになったこと、今も大切に使っている子どもが大勢いることを感謝の思いとともにお伝えして結びとします。

令和2年度 山形市PTA連合会 母親委員会 活動報告

テーマ「命の尊さ大切さ」～かかわる喜び つながる心～

○定例母親委員会

- ・第1回母親委員会（書面会議）今年度の活動計画・正副委員長承認
- ・第2回母親委員会（中止）
- ・第3回母親委員会（2/中旬）今年度の反省・情報交換

○親学「家庭教育視察研修」（1/8）

- ・山形市青少年指導センター視察

○拡大母親委員会（11/15）

講演：「いのちの大切さ学習会」

～家庭でして欲しい、いのちと性の話～

講師：井上 聡子先生（さとこ女性クリニック院長）

○母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.25 3月発行



山形市PTA連合会母親委員長 高 見 佳 澄

日々母親委員会の活動に、ご理解・ご協力いただきましてありがとうございます。

本年度は新型コロナの感染拡大を防止するため、各学校の母親委員会の活動が自粛、市P連母親委員会においても、第一回・第二回の定例会は書面会議や中止にせざるを得ない状況でした。拡大母親委員会も中止すべきか悩むところでしたが、他県で休校中の中高生の婦人科受診数増加というニュースを知り、家庭での性教育の大切さをぜひ皆さんと学びたいと思い、PTAの研修会と共催という形で開催させていただきました。今回新たな試みとしては、参加できなかった方でも、希望者には期間限定でネットで視聴することができるようにいたしました。

私たちは、コロナ感染対策をしながら、子どもたちの幸せな未来のために、学び合うこと、情報を共有することを大切に、今後の様々な活動に活かせるよう努めていきたいと思っています。

今こそ 親子のかかわりを 大切に!!

山形市PTA連合会第20代会長 新 関 徳次郎



平成25・26年度の2年間、山形市PTA連合会会長を務めさせていただきました。

スローガンとして「育もう 強くやさしい心の子どもたちを」～共に汗をかき 共に笑い合えるPTAを目指して～を掲げ、仲間とともに行動して参りました。

特に、家庭・学校・地域の教育力の向上と相互の信頼関係構築、親子のコミュニケーションを深める様々な体験活動の充実、「いのち」を大切にする健康安全教育に対する指導及び奨励、東日本大震災被災地へ思いを寄せ、被災された子どもたちを見守り応援していくための活動の推進等に奔走させていただきました。日本一活動するPTAと自称しながら取り組んだ記憶が思い出されます。

子どもたちの健全な育ちを阻害している原因を家庭や学校または社会環境に一方的に押し付けても解決しないので、家庭・学校・地域が相互に理解し合い、信頼関係を深め、子どもたちの育ちを皆で見守り育てる地域社会を築くことが大切と考えています。

今年は、コロナでPTA活動もままならなかったと思いますが、こういう時こそ「親子のかかわり」が大切なのだと思います。耳を澄ませて、瞳を開いて子どもたちの心の声をしっかりと受け止めていただきたい。

2年後には山形県でPTA全国研究大会が開催されると聞いております。新しい時代の全国大会、大変かと思いますが頑張ってください。

各単位PTAの活躍と山形市PTA連合会の更なる発展を心からご期待申し上げます。

令和3年度 第64回山形市PTA連合会研修大会

山形市立第四中学校PTA会長 遠 藤 政 幸



市P連の皆様こんにちは。第64回山形市PTA連合会研修大会は、第四中・鈴川小・千歳小・東小の4校が主管校として、令和3年7月11日（日）の開催に向けて準備を進めているところです。今年度の開催は新型コロナウイルス感染の影響で研修大会は中止となり、これまで準備されてきた第三ブロックの皆様的心中をお察しいたします。その後も三密を避ける為、実行委員会の会合を開催する事が難しく、第四ブロック実行委員会も10月に発足となり例年より半年以上も遅れてのスタートとなりました。

第64回研修大会は、山形テルサを会場に行われますが、会場の収容可能人数が新型コロナウイルス感染拡大防止対策から例年の半分（10月現在）となり、参加して頂ける人数もかなり制限されてしまい、例年通りの規模での開催が難しい状況にあります。そのような厳しい条件下で「どのようなカタチで開催できるか」「この状況だからこそ今できること」「新しい生活様式下でのPTA活動」を主管4校で知恵を出し合い保護者の皆様が学び合い、有意義な研修時間を過ごせるように実行委員一同が内容を検討しています。研修大会の具体的なテーマはまだ決まっていますが、コロナ禍から、子どもたちをどのようにして守るか、みなさんが今抱えている問題・子どもの心のケア、リモート授業、リモート会議など今時の内容を盛り込んだ研修を開催していければと考えています。

まだまだ準備不足のなかですが開催に向けて、主管4校一丸となり準備して参りたいと思っています。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

晴れの受賞 おめでとうございます (山形市 PTA 関係)

☆日本 P T A 全国協議会会長表彰 (団体)

- ・山形市立宮浦小学校 P T A

☆山形市 P T A 連合会会長表彰 (表彰状)

- ・大風 亨 (功労者・市 P 連元副会長)

☆山形県 P T A 連合会会長表彰 (表彰状)

- ・佐藤 隆幸 山形市 P 連研修大会前実行委員長
- ・佐藤 竜太 山形市 P 連前副会長
- ・遠藤 明 山形市 P 連前副会長

☆山形市 P T A 連合会会長表彰 (感謝状)

- ・佐藤 竜太 (前副会長 / 第一中)
- ・遠藤 明 (前副会長 / 高桶中)
- ・渋谷 和久 (前副会長 / 金井中)
- ・菅野 学 (前理事 / 南小)
- ・室岡 清人 (前理事 / 第四小)
- ・五十嵐雅彦 (前理事 / 第七小)
- ・笹森 愛 (前理事 / 鈴川小)
- ・笠原 健一 (前理事 / 明治小)
- ・荒井 英晴 (前理事 / みはらしの丘小)
- ・原田 賢一 (前理事 / 大曾根小)
- ・佐藤 一也 (前理事 / 金井中)
- ・吉岡 裕志 (前理事 / 附属中)
- ・中村 祐一 (前監事 / 第一小)
- ・櫻井 卓巳 (前監事 / 南沼原小)

☆山形県 P T A 連合会会長表彰 (感謝状)

- ・小関 広明 県 P 連前理事
- ・土井 正路 県 P 連前監事

◆ 令和 2 年度 山形市 P T A 連合会役員名簿 ◆

役職名	氏 名	所属 P T A	役職名	氏 名	所属 P T A
会 長	佐 藤 博 之	第 六 小	理 事	加 藤 健 司	楯 山 小
副 会 長	船 橋 吾 一	蔵王第一中	理 事	山 口 真 史	蔵王第二小
副 会 長	安 食 克 彦	第 三 中	理 事	渋谷 朋 博	第 一 中
副 会 長	小 林 一 善	第 六 中	理 事	佐 藤 公 啓	附 属 中
副会長 (T)	島 軒 隆	滝山小校長	理 事	井 上 敬 弘	第 十 中
副会長 (T)	井 上 賢 一	第三中校長	理 事	高 見 佳 澄	山 寺 小 中
理 事	廣 谷 修	南 山 形 小	監 事	井 田 智 幸	第 九 小
理 事	丹 野 裕 一	西 小	監 事	近 藤 恵 一	金 井 小
理 事	藤 倉 大 輔	千 歳 小	事務局長	村 山 良 光	
理 事	岩 松 剛	大 郷 小	事務局員	佐 藤 静 子	
理 事	吾 住 勝 義	村 木 沢 小	事務局員	奥 山 絢 子	

編集後記

令和 2 年度、山形市 P T A 連合会会報『じゅひょう』の原稿依頼や校正を、事務局のご協力をいただきながら、広報委員会にて担当いたしました。コロナ禍で「山形市 P T A 連合会研修大会」と「ソフトボール大会」が中止となり、各単位 P T A での行事運営もままならない中、原稿や写真をお寄せいただいた皆様には大変感謝をしております。ありがとうございました。

市 P 連主催の「教育懇談会」「いのちの大切さ学習会」等についても、事情により参加が叶わなかった皆様への報告も兼ねた紙面づくりを行いましたので、ご一読いただけますと幸いです。

また令和 4 年度には、山形市総合スポーツセンターをメイン会場に「第 70 回日本 P T A 全国研究大会 山形大会」が開催されます。こちらにもぜひ多くの皆様のご協力をお願い致します。



令和 2 年度市 P 連広報委員会 委員長 小林一善 委員 藤倉大輔・加藤健司・佐藤公啓